

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル館ケ谷九〇四 電話(03)3377-4649 FAX(03)3299-5367
振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 600円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

民主、自由両党合併の帰結

伊勢 太郎……………2

「二年半前に九万円を横領した」と懲戒解雇……………3

―(株) 神戸フローストの組合つぶし―

勝利に向かっていつまでも!……………5

―キューバ・カストロ首相のメーデー演説から―

つねに勝ちつづけるんだって……………9

―日本共産党綱領改訂案について(上)―

韓国労働運動は今…六月闘争の報告……………12

西垣 勲……………12

国鉄闘争勝利解決に向けた基本戦略の提起……………15

根岸 敏文……………15

―一〇四七名の解雇撤回を目指す―

読者からのおたより……………17 編集部だより……………14

旬刊 社会通信

NO. 876 二〇〇三年八月二二日合併号

二〇〇三年八月二二日発行
(毎月一日・二二日・二二日三回発行)

民主、自由両党合併の帰結

国家は「階級支配の道具」である。大企業に「徳政令」、働く者には「かれん誅求」の現代国家の政治のあり方、国家の要は軍隊にありとする一連の戦争法制定に明らかである。現代の政治は政党による議会制民主主義の姿をとり、選挙で多数を得た政党が国家の舵取りをおこなう。日本政治は一九五五年、鳩山民主党、吉田自由党合同で自由民主党が結党されて以来、一九九三―四年の細川、羽田政権の一年間を除き、自民党が国家権力をにぎりつづけてきた。今では小判鮫の公明党を引きつれてである。

一九八〇年代末の「三点セット＋α」の矛盾の発現、こんにちの規制緩和政策で従来の自民党支持基盤はガタガタの状況となった。それが、一九九三年の小沢一郎、羽田孜による自民党分裂となり総保守の塊として急きよ結成された民間政治臨調の世論誘導と相まって、小選挙区制導入による「保守二党論」の展開である。

保守二党論―政権交代を独占的大企業に不安なくおこなわしめる政党づくり―は、二回の選挙で実現されることはなく、小判鮫を引き連れた自民党が、「自民党をぶつつぶす」と人気を得た変人の力でかろうじて政権を維持している。政党の人気投票である世論調査で、自民は三〇%前後、それに比し野党第一党の民主は一〇%にもみたく、野党―といっても共産は枠外で社民党は切り取りの対象―といっても自由党しかない。

自由党はといえば岩手を根拠地とし、「壊し屋」と異名をとる小沢一郎の個人政党。民主、自由も逆ジラミッドの国会議員政党で、地域社会に足場はない。とてもじゃないが、二大政党制にはほど遠いのが現在の政治状況だ。

一挙に解散風が吹いてきた。このままでは自民党に押しつぶされると、明日のみえない民主と自由両党がとつじよ合同宣言を發した。自民と民主がどが違うの、民主と自由がどが違うのと問われ、答えられる人はいまい。経団連会長は、民主との会合で「民主の政策と自民には大きな差がない」と菅君に云うのだから。

民主と自由が合併すれば民主自由党になる。ひっくり返えせば自由民主党で、小泉首相の党と変わらない。これでは様にならない、自民党に吸収されるだけと、今回の合同劇では自由党を解党し民主党に合流することになったのであろう。

自民と民主に政策の違いはない。民主はただ国会議員だけの党で地方議会における足場は弱い、既得権は自民党にくらべれば歴史が浅く、離合集散をくり返した党だけに既得権からは比較的「自由」である。このことが民主に「革新」性を与えているのかもしれない。民主、自由の合同劇は①総選挙ムードが一挙に高まってきたこと、②政党支持調査で民主、自由に勝ち目がないこと、③経団連の政治献金解禁の動きに献金のおこぼれをいただきたいことなどの理由が考えられる。

自民と民主に政策の違いはほとんどないのであるから、自民と民主は巨大な財政赤字解消に増税策を競い合うことになる。約九〇%を占める労働者階級には「かれん誅求」が押

し寄せるだけであり、政治と社会、そして経済の閉塞状況はさらに強まることになる。

「一年半前に九万円を横領した」と懲戒解雇

— (株) 神戸フロッリストの組合つぶし —

組合委員長に続いて書記長を解雇 一九九五年の組合結成当初から労働組合を嫌悪していた会社(親会社)は、二〇〇〇年一〇月に突然、組合委員長を解雇。この争いは一年後に神戸地方裁判所で「会社は解雇を撤回し、合意退職する」ことで和解解決しました。

ところが、会社は解済金を支払ったその日に、今度は書記長を呼び出し、「一年半前に顧客から受取ったはずの九万円がレジ入金されていない」と犯人扱いし、明確な証拠もないまま、推測だけで昨年二月に懲戒解雇しました。

それでも次々現金トラブル! ところが、金銭問題で懲戒解雇にし裁判にまでなっているというのに、昨年四月に少なくとも二件の「現金着服事件」が発生しました。それを見つけたのは組合員ですが、入金されていた現金が、親会社からの出向社員名でレジ記録が改ざんされ、現金がなくなっていたのです。

組合員は「こんどは私が解雇されるのでは」と恐ろしくなり、ユニオンに相談、ユニオンが会社に調査を求めました。会社ははじめに調査するどころか、「会社に言わず先にユニオンに言う組合員がおかしい」「組合の仕業ではないか」と信じられない回答です。この事実が究明されれば、懲戒解雇の不当性が明らかになるからだとしか考えられません。

今年二月にホテル従業員食堂代金未請求事件 そして今度は今年二月末のことです。組合員に二〇〇一年一月・一二月と翌年二月にホテルの従業員食堂で食べた食事代金が未納だと一年以上も経過して突然の請求です。本人はすぐに請求された分を支払い、組合が会社に対して、未納だった証拠を見せてほしいと申し入れると、「証拠は捨ててしまった」と言い、会計担当者はもちろん、宮常務も(未納があったとすれば)未納を知っていて一年以上放置していたことに対し、「本人が支払わないことが問題」だったのだと居直るばかりです。

食事は、一か月分をまとめてホテルから会社へ請求書が発行され、会社は各従業員から集金し、ホテルへ支払うのですが、会社は、これは個人の問題で、会社は関係ないというそぶくのです。それでは未納代金を誰がどのように立て替えていたのでしょうか。いずれにしても、この会社の会計と管理はどのようになっているのか、あきれてしまいます。

解雇の目的は組合つぶし 二〇〇三年一月二〇日に地方労働委員会で行われた審問が行われましたが、会社側証人の笹浦元部長は「組合員には聞き取り調査を行わなかった」と証言しました。

会社が、本来の正義のために調査をし、その結果として解雇したというのであれば、組

合員を避けて調査する必要はありません。本人に対する聴取を行わず、組合員をはずして「調査した」というのは、明らかに組合を敵視し、初めから組合員排除を狙ったものであるとしか考えられません。

書記長を解雇した「九万円横領事件」「昨年四月売上現金着服事件」の両事件はどちらもとお金がなくなっている事件です。一方では明確な証拠もなしに推測だけで懲戒解雇し、他方の事件はろくに調査もせず事件を放置したままというのはあまりに不自然です。

会社は、裁判でも「会計管理はきっちりしている」と断言しています。しかし、九万円がないと気づいてから一年半以上も経過して担当者了解し、その間、再発防止の手段をとらず、解雇後も現金着服事件がおこるという状態は、会社の管理責任が問われてしかるべき問題です。そして、「二〇〇二年四月売上現金着服事件」も含め、会社内の調査で解明できないのであれば、警察に届け出て調査してもらおうという方法も考えなければなりません。組合がそれを求めても、会社は「犯罪性があるかどうか検討中」と言うだけで本気で調査する、真相究明しようとはしません。

連続解雇事件での会社の目的が、真相究明と不正行為の再発防止にあるのではなく、「九万円横領」を罰するための正義などでもなく、組合つぶしにあることは明らかです。

働く者がもの言える職場・会社を 私たちは、今回の解雇が不当な人権侵害であるばかりでなく、働く者誰にでも起こりうる問題として、そのような不法行為を許さない闘いだと考えています。「ある日突然、会社からやってないなら証拠を見せろと迫られ、犯罪者にさせられ、解雇される」——日々まじめに働いていても、会社に気に入られなければ、推測だけで犯人にされ、解雇されることになるからです。

雪印の食中毒事件をあげるまでもなく、企業の不正行為に、働く者が「おかしいことはおかしい」と声を出して言えなければ、企業の健全な発展、社会の安心をつくることはできません。

(株)オークラ神戸フロリスト(現・株神戸フロリスト)は、東京の第一園芸と大阪のサトウ花店が共同出資して設立した会社で、ホテルオークラ神戸の中で館内・婚礼宴会などの装花装飾を営んでいます。

役員・管理職はすべて親会社が占め、出向社員が常に配属されるなど、会社としての独立性はなく、組合との交渉をはじめすべて親会社の指示によって動いています。組合を嫌悪する両親会社は、弁護士と相談して探偵社を雇うなど、結成当初から組合つぶしを狙っていました。

しかし、果たせなかった野望を労働者のスキにつけ込んで、当時の笹浦部長と両親会社は二〇〇〇年の賃上げ、夏一時金を解決しようとせず、一〇月に分会委員長を解雇し、今回の書記長でつち上げ解雇に及んだものです。

争議になって、会社は社名を変更し、現在は(株)神戸フロリストとなっています。

勝利に向かつていつまでも！

— キューバ・カストロ首相のメーデー演説から —

祖国、革命を守り抜く

キューバ国民の英雄的な闘争は四四年を迎えています。人類史上最強の帝国からわずかな距離しか離れていないカリブ海の島から、わたしたちは闘争を続け、歴史書に見たことのない一章を書いて来ました。これほどまでに不平等な闘いは世界にありませんでした。

北に位置する帝国は世界に比べるものがないほどの軍事力、科学技術力をもって唯一の超大国の地位に上りつめました。これによってキューバ人が震え上がり、くじけるだろうと信じた人々がいたかも知れません。しかし、このような人々も今日、キューバ国民が勇気をいっそう強化しているのを見て、驚嘆しないわけにはいかなければなりません。

五月一日、労働者たちの栄光に満ちた日、シカゴの五人の労働者の死を悼むこの日に、ここにお集まりの一〇〇万人の皆さんを代表して、わたしははっきりと宣言したいと思いません。わたしたちはどんな威嚇にも、圧力にも屈せず、思想と武器で最後の血の一滴までかけて祖国と革命を守り抜く準備ができています。(拍手)

ソ連と社会主義圏の消滅後、だれ一人、キューバ革命の存続可能性に一セントのかけさえもありませんでした。米は封鎖をいっそう厳格にし、トリチェリ法、ヘルムズ・バートン法を採択しました。どちらも本質は治外法権法です。わたしたちは主要な市場と原料供給地を突然、失いました。市民の平均カローリとタンパク質消費は約半分になりました。しかし、わたしたちはこの圧力に耐え、社会分野では相当の発展すら遂げました。現在では栄養面ではほぼ回復し、社会サービス分野以外にも急速に進展しています。この条件下で数年間、労働が行われ、意識が形成されました。まるで奇跡でした。なぜ耐えることができただでしょうか？ それは人々が革命をつねに信頼していたからです。それは現在も、未来も続くでしょう。(拍手)

人々は知力を蓄え、いっそう団結し、さらに教育を受け、力強く闘います。

ブッシュは「世界軍事独裁」

キューバは二〇〇一年九月一日に米人民に連帯した最初の国でした。また米極右勢力、二〇〇〇年十一月に不正な方法で権力に就いた勢力のネオファシスト的性格を警告した最初の国でもありました。極右勢力は自らの政策を世界に押し付けることを目論んでいます。米人民に敵対して、歴代米政権にこれまで奉仕してきた狂信的組織のメンバーが攻撃をかけたために、残虐なネオファシスト的政策が出て来たものではありません。

この政策は冷静かつ慎重に練られ、編み出された一つの思想でした。冷戦がもはや存在しなくなっても米軍が再び増強され、兵器に巨大予算が組まれたことがこのことを物語っています。二〇〇一年九月一日よりはるか以前のことでした。この日の出来事はこの政策を実行に移す理想的な口実でした。

その年の九月二〇日、ブッシュ大統領は九日前の悲劇的事件に動揺しつつ、公然とこの政策を議会で明らかにしました。奇怪な用語「無限の正義」を使い、戦争の目的に最終点

はないと言明しました。

「米国はただ一つの戦闘を期待してはならない、長期にわたる戦争、歴史上未経験の戦争を覚悟しなければならない」

「われわれは必要であれば、どんな種類の戦争の兵器をも使用するだろう」

「いずれの国、地域であれ、今決定しなければならない。われわれの側に就くか、テロリストに就くかだ」

「わたしは米軍に警戒態勢に入るよう呼びかけた。それには理由がある。米国が行動する時がやって来たのだ」

「これは文明の闘いだ！」

「現代の偉大な事業、全時代の偉大な希望、今それはわれわれしだいだ！」

「この紛争の行き着くところはわからない、しかし、結果は明らかだ。知つてのとおり神は中立ではない」

この言葉を発したのは政治家だろうか、それとも拘束を解かれた狂人だろうか？ 二日後、九月二二日、わたしたちはこれを世界軍事独裁と非難しました。

何らの国際法も、国際機関も無視した野獣の力のひ護下におかれた世界の独裁、その写真でした。

「国連は現実の危機の中で無視されるばかりで、何の権威も、大権ももてない。世界には一人のボス、一人の判事、一つの法しかないだろう」

数カ月後二〇〇二年六月三日、九五八人の卒業生を送り出すウエストポイント軍事アカデミー二〇〇周年記念卒業式典の際、ブッシュ大統領はこの考え方をいっそう綿密化させて、若い兵士に向かって熱弁を奮い、自分の考えを明確に示しました。

「われわれの安全保障は、卒業生のみなさんの率いる軍の変革を必要とする。世界のいかなる暗い場所であっても、常に即時攻撃ができる軍でなければならぬ。米国の安全保障はわれわれの自由、われわれの生命を守るために、必要とあれば先制攻撃をかける準備ができていなければならない」

「われわれは六〇カ国以上にあるテロ細胞を発見しなければならない」

「われわれは必要とされるところ、どこであれ、君たち、兵士を送る」

「われわれはアメリカの安全と地球の平和を、少数のテロリストと狂った独裁者たちのなすがままにしておくことはできない。われわれはこの脅威の黒い影をアメリカから、世界から排除しなければならない」

「善だ、悪だと語ることは外交にも外れるし、礼儀正しくない、そういう懸念にわたしは反対だ。われわれは善悪の戦いの中にいるのだ。アメリカは悪を名指しする。悪と無法の独裁政権に対決することで、問題を作り出すのではない、問題を明らかにするのだ。そして世界をそれに反対する戦いにもって行くのだ」

キューバ「反体制派」は人類全体の裏切り

二〇〇二年六月八日、サンティアゴ・デ・クーバのアントニオ・マセオ革命広場での集会で、わたしは五〇万人の参加者を前に次のように演説しました。

「ブッシュ大統領はウエストポイントでの演説で、国連には一言も触れずに、また安全保障と平和に対する諸国民の権利や規律と原則で統治された世界について言及しませんでした。」

「ナチズムの苦い歴史を人類が経験してから、数十年しかたっていません。ヒットラーは自分の敵対者にも恐れを抱いていました。この恐るべき軍の統括者が世界規模に拡大することになる戦争を引き起こしました。当時の欧州の最強国家の政治家たちには展望がなく、またおく病であったことが甚大な惨禍への道を開きました。」

「米国でのファシスト政権の設立はできないでしょう。米国の政治体制下では深刻な誤り、不正が行われ、現在も続いています。米国民には決定的な社会制度や伝統、教育、文化、倫理から得た価値観があり、そんなことを現実のものとはさせないでしょう。その危険性はむしろ国際社会にあります。」

米大統領の権力と特権は絶大であり、米国の経済力、科学技術力、軍事力の組織網は広範囲に行き渡っていることから、米国人自身の意志からまったくすりぬける形で、世界がナチ的な考え方、方法の支配下におかれようとしています。」

「ブッシュ政権が世界六〇カ国以上の国々で生きてると名指した惨めな者たち、キューバの場合はマイアミの友人によって選ばれた者たち、こうした者たちはまったく取るに足りません。しかし、これが奇襲的な先制攻撃の標的になりうる『世界の暗い地域』になっています。この中にキューバも入っており、テロ支援国家リストの中にも含まれているのです。」

わたしは世界軍事独裁という考え方をイラク攻撃一年三カ月一九日前に初めて話しました。戦争前、ブッシュ大統領は米国は必要であればいかなる兵器をも使用すると繰り返しました。つまり、核兵器、化学兵器、生物兵器を使用すると言いました。アフガニスタンの攻撃と占領はすでに起きていました。

今日のいわゆるキューバ「反体制派」は実際はブッシュのヒットラーまがいの政府に金で雇われたよう兵であつて、祖国を裏切っているだけでなく、人類全体を裏切っています。

ネオファシスト極右とその同盟者はマイアミのテロリスト一味の中におり、不正選挙によつて勝利を獲得しました。今、この勢力はキューバに敵対する陰謀を企んでいます。この超大国はキューバの海岸からわずかしか離れていないところに位置し、その上、わたしたちの領土内には米軍基地が置かれています。

この状況下でわたしたちキューバ人は米の侵略的な計略と闘っており、合法的かつ正当防衛的な手段を行使せざるを得ない状況におかれています。これについて左翼や人道主義者の立場にいると思われる人で、キューバ人民を非難したことのある人々、そのうちどれくらいの人々がブッシュ氏の言葉の意味を読み取り、意識をもつことができたのか？ として演説のたびに彼が出した政策について、これを拒否し、非難することができたか、わたしは考えます。

無防備の人類を十回も破滅させることのできる兵器、未曾有の巨大な軍事力をもつ国の元首として、ブッシュ氏はナチ・ファシストのような発言、国際的陰謀を宣言しました。彼の演説については、わたしはすでにお話ししました。

米の攻撃には屈しない

マイアミとワシントンでは今、どこで、どうやって、いつキューバを攻撃をするか、革命の問題を清算しようかと相談しています。ここしばらくは、経済対策を練って野蠻な封鎖政策をどう強化しようかと考えることでしょう。しかし、何を選んで、だれが辞任させて効果を上げるか、まだ分かっていません。選択肢は限られています。ほとんどすべてを使い切ってしまった。

名は恥もなくリンカーン、姓はディアス・バラルト、ブッシュ大統領の親しい友だちで、相談役が、マイアミのテレビ番組でおかしな発言をしました。「わたしは詳しくはお話できないが、この悪循環を断ち切る努力をする。」どんな方法で悪循環を解決するのでしょうか？ 選挙の前にブッシュ氏がテキサスで約束したように、超ハイテク法でわたしを肉体的に抹消するというのでしょうか？ それともイラクを攻撃したやり方でキューバを攻撃するというのでしょうか？

第一の選択肢の場合、ぜんぜん心配していません。これはわたしが一生かけて闘って来たことだし、なくなるはずもなく、今後もあり続けることでしょう。(拍手、フィデル！
フィデル！ フィデル！の歓声)

イラクのようにキューバを攻撃するという場合、わたしは人命の損失、キューバに甚大な被害を与える破壊について考えると、胸が痛くなります。しかし、そんなことをすればブッシュ政権最後のファシスト攻撃になります。(拍手、「奴らを通すな！(No pasaran!)」の叫び)

なぜなら、闘争は長期に及ぶからです。侵略者はただ軍と対峙するだけでなく、再生産を続ける人民の何千もの隊列に遭遇して、多大な犠牲を払わなければならなくなるでしょう。(拍手、「フィデル、ヤンキーに一撃してやれ！」の叫び)

人命の代償があまりに高つくため、アメリカ人はブッシュ大統領の冒険と思いつきのために、進んで自分の息子や娘を差し出すことはしなくなるでしょう。

今日、ブッシュ氏が過半数の支持を得ていても、落ち目になり、やがてゼロになります。高い教養を備え、理性でものを考え、基本倫理原則をもち、ベトナム戦争終戦時より数百倍も多く、数千万台のコンピュータを使って通信をかわす数百万のアメリカ人民自身が、人民全員をだますことはできないこと、ある一部の人々を永遠にだまし続けることはできないことを自ら示します。いつかアメリカ人民が、地球上の生命を全滅させないうちに狂人に着せる拘束服が必要な者たちにそれを着せることでしょう。

思想は武器に勝る

メーデーに参集された百万のみなさんの名をもって、わたしは世界とアメリカ人民に向かって、次のようなメッセージを一つ送りたいと思います。

わたしたちはキューバ人と北アメリカ人の血が戦争で流れることを望まない。

友人となり得るはずの無数の人々の命が武力紛争の中で消えることを望まない。

これまで一つの人民が、これほどまでに崇高なものを守り、これほどまでに深い信念をもって闘い、数知れない最良の息子たち、娘たちが命をかけて何世代にもわたって闘い、

これさえあれば地球上から忘れ去られてもかまわないと思うほどに堂々と、惜しみなく課題を遂行したことはありませんでした。(長い拍手)

わたしたちキューバ人はそれほど深い信念をもっています。武器がどれほどに精巧になり、強力になろうとも、思想に打ち勝つことはできません。

チエがわたしたちキューバ人に別れを告げたとき、言った言葉を言います。

勝利に向かっていつまでも!

(Hasta la victoria siempre!)(歓声)

つねに勝ちつづけるんだって

—日本共産党綱領改訂案について(上)—

全面改定案

日本共産党は六月二一日、第七回中央委員会総会を開き、十一月に予定されている第二十三回党大会に提案する党綱領改訂案を明らかにした。

党綱領改訂案は、(一)戦前の日本社会と日本共産党、(二)現在の日本社会の特質、(三)世界情勢—二〇世紀から二一世紀へ、(四)民主主義革命と民主連合政府、(五)社会主義・共産主義の社会をめざして、の五章だて。

不破議長は提案報告で改訂案作成にあたって、①国民によりわかりやすい表現にすること、②前綱領から四十二年間の情勢の進展、党の理論・政治活動の発展を反映させることに力点をおいたと発言した。

共産党の現綱領は一九六一年に採択され、今日まで数回にわたり部分的に改訂されてきた。(1)プロレタリアート独裁をプロレタリアート執権(一九七三年)、(2)プロレタリアート執権を削除、マルクス・レーニン主義の用語を削除(一九七六年)、(3)資本主義の一般的危機削除、社会主義国の一部に覇権主義を加筆(一九八五年)、「社会主義国を社会主義をめざす国ぐに」に修正、「国有化」を削除(一九九四年)といったようにである。二〇〇一年の規約改正では「前衛党」との用語が削除され、共産党機関誌『前衛』の名称変更すら検討された。

資本主義的生産様式は、生産手段の私的所有に立脚し、資本と賃労働という二つの階級を基本に、最大限の搾取とその現象形態である利潤を追い求める社会であることに変わりはないが、歴史の発展とともに姿を変える。「社会主義世界体制」崩壊で資本主義という経済システムが世界市場を再包摂したことによって、現代社会の客観的・主体的条件は大きく変化し、綱領改訂は歴史の結果である。

改革案—いくつかのポイント

綱領改訂案は、なしくずし的に修正されたことから体系的に再整理していることが最大の特徴である。まず、改訂案のポイントを明らかにし、その後、理論的に考えてみたい。

一、共産党結党時(一九二二年)の資本主義認識

「当時の日本は、世界の主要な独占資本主義国の一つになっていた」（第一章）。

二、現在情勢の規定について

「わが国は、高度に発達した資本主義国でありながら、国土や軍事などの重要な部分をアメリカに握られた事実上の従属国となっている」

「日本とアメリカとの関係は、対等・平等の同盟関係では決してない。日本の現状は、発達した資本主義諸国のあいだではもちろん、植民地支配が過去のものとなった今日の世界の国際関係のなかで、きわめて異常な国家的な対米従属の状態であって、アメリカの対日支配は、明らかに、アメリカの世界戦略とアメリカの独占資本主義の利益のために、日本の主権と独立を踏みにじる帝国主義的な性格のものである」

「日本独占資本主義（その中心をなす少数の大企業）は、大きな富をその手に集中して、巨大化と多国籍企業化の道を進むとともに、日本政府をその強い影響のもとに置き、国家機構の全体を自分たちの階級的利益の実現のために最大限に活用してきた。国内的には、大企業・財界がアメリカの対日支配と結びついて、日本と国民を支配する中心勢力の地位を占めている」

「日本独占資本主義と日本政府は、アメリカの目したの同盟者としての役割を、軍事、外交、経済のあらゆる面で積極的、能動的に果たしつつ、アメリカの世界戦略を日本により深く結びつける形で、自分自身の海外での活動を拡大しようとしている。」

こうして、最後に結論として――

「対米従属と大企業の横暴な支配を最大の特質とするこの体制は、もともと、日本国民の根本的な利益とのあいだで解決できない矛盾をもっていたが、二一世紀を迎えて、その矛盾は、ますます重大で深刻なものとなりつつある」と結んでいる。（第二章）

三、世界的情勢

「二〇世紀の諸経験、なかでも侵略戦争やその企てとのたたかいを通じて、平和の国際秩序を現実に確立することが、世界諸国民のいよいよ現実的な課題になりつつある」

「レーニン死後、（ソ連は）官僚主義・専制主義の道を進んだ。ソ連とそれに従属してきた東ヨーロッパ諸国で一九八九〜九一年に起こった支配体制の崩壊は、社会主義の失敗ではなく、社会主義の道から離れ去った覇権主義と官僚主義・専制主義の破産であった。」

「ソ連覇権主義という歴史的な巨悪の崩壊は、大局的な視野で見れば、世界の革命運動の健全な発展への新しい可能性を開く意義をもった」

最後の一節のとうぜんの帰結として、中国の「市場社会主義」論は、「社会主義をめざす新しい探求」として評価される。

「それ（アメリカの最近の動き）は、独占資本主義に特有の帝国主義的侵略性を、ソ連の解体によってアメリカが世界の唯一の超大国となった状況のもとで、むきだしに現したものにほかならない。…あからさまな覇権主義、帝国主義の政策と行動である。」

「国連憲章にもとづく平和の国際秩序か、アメリカが横暴をほしのままにする干渉と侵略、戦争と抑圧の国際秩序の選択か、いま問われている」

四、民主主義革命と民主連合政府

「現在、日本社会が必要としている変革は、社会主義革命ではなく、異常な対米従属と大企業・財界の横暴な支配の打破―日本の真の独立の確保と政治・経済・社会の民主主義的な改革の実現を内容とする民主主義革命である。」

民主的改革は(1) 国の独立・安全保障・外交、(2) 憲法と民主主義、(3) 経済的民主主義の三分野が掲げられ、不破氏自身も報告で詳しく述べた(1) 自衛隊、(2) 天皇条項については次のようになっていた。

「自衛隊については、海外派兵立法をやめ、軍縮の措置をとる。安保条約廃棄後のアジア情勢の新しい展開をふまえつつ、国民の合意での憲法第九条の完全実施(自衛隊の解消)に向かつての前進をはかる」

「天皇条項については、『国政に関する権能を有しない』などの制限規定の完全実施を重視し、天皇の政治利用をはじめ、憲法の条項と精神からの逸脱を是正する。

党は、一人の個人あるいは一つの家族が『国民の統合』の象徴となるという現制度は、民主主義および人間の平等の原則と両立するものではなく、国民主権の原則の首尾一貫した展開のためには、民主共和制の政治体制をはかるべきだとの立場に立つ。しかし、これは憲法上の制度であり、その存廃は、将来、情勢が熟したときに、国民の総意によって解決されるべきものである。」

「民主主義的な変革は：統一戦線によって、実現される。日本共産党と統一戦線の勢力が、国民の多数を得て、国会で安定した過半数を占めるならば、統一戦線の政府・民主連合政府をつくることができる。民主連合政府は、：国民諸階層・諸団体の民主連合を基盤として、日本の真の独立の回復と民主主義的変革を実行することによって、日本の新しい進路を開く任務をもった政権である」

五、社会主義・共産主義の社会をめざして

民主連合政府は民主的改革を力に応じて実行する。憲法九条が完全に実施され、天皇条項が国民の総意で解決されるといった場合、これは民主主義の飛躍であろう。共産党は民主連合政府から「社会主義・共産主義の社会」をどう考えているのだろうか。

「日本の社会発展の次の段階では、資本主義を乗り越え、社会主義・共産主義への前進をはかる社会主義的変革が、課題となる。」

「社会主義的変革の中心は、主要な生産手段の所有・管理・運営を社会の手に移す生産手段の社会化である。社会化の対象となるのは生産手段だけで、生活手段については、この社会の発展のあらゆる段階を通じて、私有財産が保障される」

「社会主義・共産主義の社会がさらに高度な発展をとげ、搾取や抑圧を知らない世代が多数を占めるようになったとき、：真に平等で自由な人間関係からなる共同社会への本格的展望が開かれる。」

「社会主義的変革は、短期間に一挙におこなわれるものではなく、国民の合意のもと、一步一步の段階的な前進を必要とする長期の過程である。

その出発点となるのは、社会主義・共産主義への前進を支持する国民多数の合意の形成であり、国会の安定した過半数を基盤として、社会主義をめざす権力がつくられることである。そのすべての段階で、国民の合意が前提となる」

最後に生産手段の社会化について、二つのことが強調される。

社会化は情勢と条件に応じて多様な形態をとる。したがって、日本社会にふさわしい独自の形態の探究が重要であること、もう一つは、「市場経済を通じて社会主義に進むこと」は、日本の条件にかなった社会主義の法的発展方向」といわれることである。(つづく)

韓国労働運動は今：六月闘争の報告

ソウル衣科労働組合を訪問

一月労働者大会武庫川ユニオン訪韓団の日程打ち合わせとTシャツ・ジャンパーの注文などを目的にソウル衣科労働組合を訪問しました。今回の訪問も、大阪労働弁護団の山口さん、七堂弁護士さん、ソウルの活動家仲間と世話になりながら、注文等は無事に済ませ、ホテルチェック、交流日程の下調べも行いうことができました。

四日間の短期間でしたが、民主労総六月闘争の重要な局面にソウルに行き、韓国労働者の闘いに触れる機会を持つことが出来ました。

二〇〇三年の韓国労働運動

昨年にはきつづき、韓国労働運動は、構造調整にたいする闘い、非正規労働者の労働条件、労働運動弾圧、賃金・労働条件の改善で、ストライキ、筆城(座り込み)など戦闘的な闘争が相次いでいる。その経過をすべて紹介できませんが、注目すべき闘争を紹介しますので、興味のあるかたは調べて参考にして下さい。

斗山重工業：解雇・懲戒処分撤回、民事賠償、財産仮差し押さえをめぐる闘争で、焼身自殺者も出した。三月二二日、解雇の一部撤回と民事責任を問わないとすることで闘争終結。
全教組：教育の情報管理化をおこなうNBIS反対の闘争。人権、教育権、労働権の闘争で、年休闘争などが闘われている。

貨物連帯：物流を担う貨物運輸労働者が、ストライキで、全国の物流がストップ。「軽油税値上げ分全額政府負担、中間搾取構造機構改善など」の要求の前進を勝ち取る。
地下鉄労組：「安全対策と人員増員」を求め、仁川・大邱・釜山の地下鉄労組がストを構え妥結。
朝興銀行：国有化された朝興銀行の再私有化の雇用問題をめぐってスト突入。(韓国労総傘下)
経済自由特区と非正規労働者の問題に対する闘い

鉄道労組のストに立ち会う

さて、このような闘いのつづく韓国に、二七日夕刻到着した我々は、二八日を期して、予定されている鉄道労組の闘争に出会うことになった。民主労総に移行した鉄道労組は、二八日、午前四時を期してスト宣言を発し、ストライキを構え、ソウル市では、世紀大学構内で、前夜の集会を行っている事を聞き、韓国の活動家、南さんの案内で集会に参加することになった。

広い大学の構内の二四〇〇名収容の講堂に、紺色の闘争服に身を包んだ鉄道労働者が溢れていた。集会は、午後四時から開かれ、翌日午前四時のスト突入まで続くというものだった。我々は、夜一〇時に集会に参加。舞台は、機関車をバックにした鉄道労働者を描いた看板を後ろに、組合員のグループの歌(音響、照明)が、力強く、続いていた。

会場は、舞台のシユプレヒコールにあわせ、コブシを上げ、ウエーブを作り、鉢巻きを掲げまさにスト突入前夜であった。鉄道労働者は、二四時間交代勤務であるので、全国二万二〇〇〇人の組合員のうち半数がスト突入することになる。

チョンファンギョ鉄道労組委員長、段炳浩民主労総委員長の挨拶を聞いた。段委員長は「合意を履行せず、履行を要求すれば公権力を行使しようとする政府こそ不法である。盧武鉉（ノムヒョン）政府が正当な闘争に弾圧するならば、民主労総は盧政府にたいして対政府闘争を行う」と挨拶。段委員長は、一年六か月の不当拘留を終え、出所したばかりであった。

緊迫した集会の最中に、我々は、別館の会議室で、鉄道労組対外協力担当のシン・ドンホさんと面会し、激励する機会を得た。対外局長は、「闘いは、勝ともあれば、負けることもある。負けるかも知れないが闘わなければならないときがある。」と発言していたのが頭に残った。我々は、一二時ごろ、集会をあとに、ホテルへ戻った。

警察権力によるスト弾圧

あくる日、二八日、南さんと三時から始まった「鉄道労組の弾圧に抗議する国会議事堂前の民主労総の集会」で会い、鉄道労組のスト突入と警察権力の導人について、聞いた。

それによると、南さんは、朝四時のスト突入を受け、六時ごろ引き返した。そのあと、七時に警官隊が入り、組合員一五一九人を連行したという。組合員は、朝六時、弾圧を避けるため、闘争服から、平服に着替え、講堂から出て、構内から続く山に移動したが包囲され連行された。

全国の拠点でも警察権力の弾圧があり、組合員が多数逮捕されたという。鉄道労組は、権力の弾圧に怒り、無期限のストに突入。組合員は、職場にも、家庭にも戻らず、分散して、散会闘争に入っているという。鉄道は、ほとんど止まっているという。

集会は、民主労総の組合員五〇〇人ぐらいの集会であった。段民主労総委員長は、強力な対政府闘争を準備していると挨拶。幹部が座り込みに入った。

今回の鉄道労組のストライキ闘争の目的は「政府は約束を守れ」と言うものである。鉄道労組は、今年四月二〇日の闘争で、政府の鉄道改革関連法案に対して、「鉄道の改革には、利害当事者をふくめ、社会的合意を得ていく」との政府間合意を行ったが、六月に入り、民主党議員の発議によって、政府案と同じ鉄道改革法案が国会に上程され、委員会での採決、本会議での採決という政府の合意無視、約束違反に対して合意の履行を求めた闘いであった。

その他、復職、人員補充についても政府との間の合意も反古にされてきており、労働者の怒りは最高潮に達していた。韓国マスコミは、日本のそれと同様に、現象面の映像とニュースで、スト迷惑宣伝を担っていた。

韓国から帰国した翌日、七月一日、午後四時、鉄道労組は、四日間のストを打ち抜き、ストライキの中止指令、職場復帰指令を出した。憲政権の「社会統合のための労使関係」方針は、反労働者性を早くもあらわにしたものとみなさなければならない。

社会福祉施設の解雇撤回闘争を激励

六月三〇日、南さんの案内で、ソウル市庁前にテントをはり、竈城闘争を行っている、地域労組の社会施設分会の闘争現場を訪問した。市庁前の道路には、垂れ幕、何本もの激励の鉢巻きがつるされられたなかに、テントのなかに一〇人近い組合員がいた。

闘っている施設労働者はソウル市から運営を委託された経営者により、組合員の所属する仕事をなくし、組合員一〇名を解雇し、ストライキ闘争でさらに一三人を解雇するというひどいものであった。

対市闘争を昨年、一月から続けている。同様の社会福祉施設分会は三分会あり、七〇人が組合員である。市との話し合いは行われているが、解決が見えない状態という。

分会は、ソウル市の地域合同労働組合に属している。韓国でも、大企業労組、産別労組が闘争をひっぱって来たが、非正規、中小企業労働者の地域合同労組建設が進み、釜山では、一六〇〇名の組合員を組織するに至ったと報告された。

分会委員長、企画部長と話したことで印象に残っているのは、「日本から激励に來られるが年配者が多いがなぜか。年配者が労働運動の中心勢力であれば、社会的にも勢力を形成しているのではないか」というものでした。われわれは、なんと答えなければならなかったか推察してください。また、長期の闘争と生活の維持について苦勞されている様子が伝わってきた。

しかし、組合員は元気で、テントでは、ポリウム一杯で労働歌が流され、マイクで、市庁に訴えていた。一月に再び、市庁前であうことなく、勝利して解決されることを祈り、分かれ、帰国の途についた。

(西垣 勲)

◇ 編集 部 だ よ り ◇

▽国労闘争団の仲間たちは、国鉄分割民営化攻撃いらいのお付き合いで、今では家族同様—もっと親密かな—の関係です。過日、私にとつての第二の故郷となつた北海道へ。音威子府にも足を伸ばしました。音威子府闘争団では「たたかいつづける」ため、事業拡大が計画されていました。羊かん、木工について味噌を全国展開しよう、生産量をふやそうというものです。

▽音威子府の味噌は実にうまいんです。はじめて食したとき、「昔々、じいちゃんがつくつた味」と、すっかりファンに。まわりの仲間に「ちよつと試してよ」と味見してもらつたところ、「ウマイ！」とファンはどんどん増えつづけました。

▽この実績のうえに、音威子府の仲間たちは「全国展開」を企画されたのです。全国展開のポイントは「『音威子府みそ』を育む会」をつくり定期的に味噌購入者を組織したいというものです。

▽音威子府みそは、まさに手作り。一度購入するとみそが「生きて」いるのがわかります。酵母が活動するのがわかります。一度試してみませんか。必ずファンになること請けあいます。

▽興味と関心がおありの方は、社会通信にご連絡を。資料を送ります。

▽すぐ八月というのに、冬の装いで行動中。夏物商品はほぼ全滅ということでしょう。消費は伸びません。冷夏だけにかぎりません。首切りから逃れた労働者にはボーナスの多少のアップがあつたかもしれません。しかし首切られた人の収入はゼロ。失業保険もカットが現状ですから、消費は伸びるわけなしです。

▽政府統計は「消費が伸びた」「収入がふえた」と大宣伝。選挙目当ての世論対策はみえみえ。

国鉄闘争勝利解決に向けた基本戦略の提起

— 一〇四七名の解雇撤回を目指す —

I 「解決構造」を明らかに

四党合意が破綻、国労本部による国鉄闘争の解決がまったく不可能になってきている現在、鉄建公団訴訟が唯一有効な国鉄闘争解決の構造となっている。裁判も月一回のペースで進行している。しかし、弁護団からも強く指摘、要請されている大衆闘争の強化と支援・共闘組織の拡大が、著しく立遅れていることも事実である。

この立ち遅れの克服のためには、国鉄闘争の解決構造を明らかにし、その徹底を図ることが決定的に重要になっている。

最近（二〇〇三年六月付）、鉄建公団原告団名で「第二段階の国鉄闘争、新たな局面と闘いの構築（案）」が示されている。文章中「II、一〇四七名闘争の解決構造について」下記の意見を提起し、原告団をはじめ、共闘会議や国鉄闘争に心を寄せる多くの皆さんに検討を呼びかけた。

II 「敵」はだれか—政府・鉄建公団

どの争議においても、敵は誰であるか、誰が争議を解決する能力を持っているかを明らかにし、その敵に向かって闘いを集中することは最重要の戦略課題である。

国家的不当労働行為による一〇四七名の解雇撤回を求める相手、つまり敵は政府Ⅱ国土交通省であり、具体的解決能力はその政府の下にある鉄建公団国鉄清算事業本部である。

国鉄の分割民営化にもなって発足した国鉄清算事業団の業務を引き継いだこの国鉄清算事業本部は鉄建公団傘下でありながらも鉄建公団の本来業務とはまったく独立した事業体として、分割民営化によって生じた未解決問題を処理するために設置されている。

一〇四七名問題は、まさに分割民営化によって生じている最大の未解決課題であることは言うまでもない。鉄建公団国鉄清算事業本部に一〇四七名問題を解決する具体的能力があることは、つぎの点のみをみただけでも明らかである。

第一に国鉄清算事業本部は現在、JR社員（正確には出向社員）のみによって構成されていること。したがって、国労中央支部の分会（国鉄清算事業本部東日本支社分会）も存在しているのである。

第二に国鉄清算事業本部には、北海道・九州を含む三島と貨物会社の株が一〇〇%保有されている。

第三に未売却の土地など四兆円といわれている資産等を保有していること。昨年八月、横浜人活事件の勝利判決によって鉄建公団国鉄清算事業本部は、国労組合員に賃金（退職者は八二九八万円、他は一億一二九八万円に利子を付けて）未払い分として総額三億九五九二万円余を支払ったのである。その後も毎月賃金を払い続けている。

以上のように鉄建公団（国鉄清算事業本部）は一〇四七名の統一解決要求の基本である（1）全員の完全雇用確保、（2）バックベイ等の確保、（3）厚生年金の完全継続を保障し、実現する条件を有しているのである。このように、政府―鉄建公団に国鉄闘争―一〇四七名問題の解決能力があることを明らかにし、政府―鉄建公団に向けて闘いを集中していくことを国鉄闘争の解決構造の第一に掲げるべきだと思う。

Ⅲ 主体形成―統一交渉団

つぎに解決能力のある政府―鉄建公団に向けてどのような主体を形成し、解決を迫るかである。一〇四七名全員を代表する統一交渉団を組織することが基本的戦略であることは自明である。

この一〇四七名は国労闘争団九六六名、全動労争議団六四名、千葉動労争議団九名、その他八名となっている。現在、鉄建公団原告団は二八三名である。この原告団をどう拡大していくか、九六六名に近づけていくかである。

そして、政府―鉄建公団に対する要求提出と解決交渉の具体化のなかで、一〇四七名の結集と統一を実現していくことも必要である。

さらに、一〇四七名の当該、所属労組、支援の三者を含む統一交渉団の形成とその行動化を実現すべきである。そして、この三者（九者）統一交渉団は実現可能なところから具体化し、行動していくべきと思う。このための討論を東京・西部では開始したい。

政府―鉄建公団との交渉窓口は、鉄建公団原告団としてすでに開かれているという。統一交渉団はできる所から具体化し、全体化していくべきだと思う。

Ⅳ 解決構造への行動の具体化

現在の原告団二八三名から一〇四七名全体の統一した行動をどう実現するかが基本的な課題である。

第一に、鉄建公団訴訟のなかで現在不当労働行為の個別立証が最大の課題となっているが、この不当労働行為の現実を明らかにする作業は、国鉄闘争の原点であり国鉄闘争の第二段階が一〇四七名一人ひとりが主体となり構築する意味から言っても、また、訴訟だけでなく政府と鉄建公団国鉄清算事業本部に責任を追究し、解決を要求するためにもきわめて重要である。そしてこの作業は鉄建公団原告団だけに求められる課題ではない。

そこで、原告団に求められているアンケートを残りの当該にも送り、不当労働行為の実態究明に協力を求め、さらに鉄建公団への訴訟を含む闘いへの参加を要請していくことが鉄建公団への統一戦線形成のために決定的に重要である。

そして、これらの活動を通じて鉄建公団訴訟原告団を拡大していくことにあらゆる努力を傾注することが必要であろう。

第二に、鉄建公団国鉄清算事業本部に解決を要求していくため、一〇四七名全当該による統一要求づくりをすすめることである。

すでに四党合意は破綻、新たな解決方針が国労本部から提起されていない以上、本部方針に従っている闘争団とその団員には、解決のための具体的保障はまったく存在しないというきわめて悲惨な事態となっているのである。

そこでこれらの闘争団とその団員・家族に政府と鉄建公団に解決能力がある事実を徹底的にあるいは誠意をもって明らかにし、政府と鉄建公団に対し一〇四七名で統一して解決要求を提出する活動を呼びかけることが必要である。この呼びかけは、原告団・JR内組合員や共闘会議などあらゆるルートを通じて追求すべきではなかるうか。

このための必要な資料、とりわけ鉄建公団国鉄清算事業団本部の実態を明らかにする資料を大量に作成し配布する必要がある。

第三に、政府と鉄建公団国鉄清算事業団本部に対する交渉の開始と大衆行動の具体化をすすめる。

すでに訴訟に対応している鉄建公団は、闘争団当該との交渉の窓口を開いている。政府―国土交通省と厚生労働省も同様である。政府と鉄建公団国鉄清算事業団本部に交渉を求め大衆行動を組織することは政府―鉄建公団国鉄清算事業団本部に国鉄闘争の解決能力がある事実を明らかにし、情宣していくためにも必要である。

この政府と鉄建公団に向けた交渉と行動の組織化は、できるところから具体化し、その連携を強化し、大きな統一行動を実現していく継続的な活動とすることが必要であろう。

V 批判と意見を

この提起は、原告団の二〇〇三年六月付、文章に対するものとして、また昨年提起した「一〇四七名の解雇撤回を目指す国鉄闘争勝利解決に向けた基本戦略の提起」の第二段として、この間に周辺の若干の支援者との討論を基礎にとりまとめたものであり、原告団文章を強化する立場で起草したものである。ご批判とご意見を歓迎する。

二〇〇三年七月二〇日 文責 根岸敏文

◇ 読者からのおたより ◇

一三三項目のアンケート 北海道合宿、たいへんご苦労さまでした。講師の方々が言われたとおり、原告団一人ひとりの自覚・自主性が問われてきます。現在、(鉄建公団裁判で国鉄の不当労働行為を立証する)一三三項目にのぼるアンケート調査を取り組んでいます。項目が多いばかりでなく、その詳細かつ綿密なのにびっくりしています。やりきること勝利に一步近づくといい、ガンバって取り組んでいます。(稚内・K)

編集部より 私も名寄闘争団、音威子府闘争団で実物を見ました。「こりゃたいへんだ」との印象でした。資料集め、学習会的議論をし、まっ黒にして下さい。

再読 購読料がとどおり失礼いたしました。再読したくよろしくお願ひします。(福島・S)

もう一ふんばり 再購読に感謝。ご支援よろしく。あわせてご要望も。(千葉・O)

編集部より 半年分遅れてご迷惑かけました。もう一ふんばりがんばりましょう。本当にもう一ふんばりが必要な時。カンパです。一年分、よろしくご査収ください。残額、少しですがカンパです。(千葉・Y)

編集部より 先日は心せまるご意見、そして今回はカンパ、ありがとうございます。

大幅カット覚悟してたけど、大幅カットを覚悟していた一時金が昨年なみに出たので、ささやかながらカンパを含めてお送りします。
(東京・H)

編集部より カンパに感謝。これからもよろしく。
怒りをもって 貴誌が来るそうそう、真剣に読ませていただいています。私自身、二年前に本務職場に転勤になり、JR職場の労働条件のあり方がますます切り下げられつつあることと合理化が進められている現実に怒りをもっています。そのなかから今年より職場の仲間を集め定例で班会議をおこない、職場問題に取り組んでいます。
(国労・Y)

編集部より 今の状況下で定例会議を開くことはたいへんなこと。ご継続を。

そのようなことなら たいへんごぶさたしております。意見も出しきらず、すみません。先日、関東大震災八十周年人権集会に行きました。そのようなことなら書けるのですが。
(千葉・N)

編集部より 「そのようなこと」ぜひ投稿を。

結成十五周年 武庫川ユニオンは一九八八年五月に結成し今年で十五周年を迎えることになりました。十五年の歩みのなかでもっとも印象深かったのは、忘れもしない一九九五年の阪神淡路大震災とその直後に全国の仲間の支えを得て実施した「阪神大震災 労働・雇用ホットライン」の活動でした。震災解雇者を組織した被災労働者ユニオンの結成と闘いは、ユニオン運動―さまざまな職業や立場、国籍の働く仲間―の大切さを改めて実感いたしました。七月二十七日には十五年間の歩みを振り返り、新たな飛躍にしたい。
(武庫川ユニオン)

編集部より これまでの十五年は生む時期、これからの十五年は育てる時期です。

タウンモビリティ開業 ながらく導入をサポートしてきた久留米(福岡)のタウンモビリティが、このほど六月二八日に開業し、七月はじめに開業イベントをしました。私達はこのためにイギリスの担当を招聘してワークショップする事業を担当し、ようやくそれが終わって一息ついているところです。私は島原の乱の史跡などを観光案内し、日本の階級闘争の歴史について熱く語っておきました。
(福岡・M)

編集部より 「疎外論の問題意識と『物象化』論―廣松渉は何を誤読したのか」お送りいただき感謝。私は廣松をいっさい読んでおりませんので、あなたの論文とともに勉強したい。批評には少しばかりお時間を。

ビデオ 先日NHKでIGMの運動状況がよく見えるビデオを放映しましたので参考になるかもしれないと思います。まだ観ていませんでしたら見てみて下さい。
(東京・S)

編集部より お心使いに感謝。時間つくって参考にさせてもらいます。

稲村竜君は 「いじめ・暴力」の被害にあわれた竜君は、その後どうしておられますか。(大分・A) 編集部より 緊急避難的に他校に転校し、よい先生に恵まれて竜君は毎日頑張つて登校しているものの、朝の登校がすんなりできない、プールの授業が受けられないなどPTSD(心的外傷後ストレス障害)の回復がなされていません。現在も大津市教育委員会とねばり強い交渉をつづけられています。転校先への登下校がへんぴな寂しい山道を通らざるをえず、昨今の忌まわしい事件も合わせ心配です。しかし、竜君はこの夏休みラジオ体操に元気で参加、毎週水曜日のパソコン教室を楽しみにホームページも開設、竜君愛用のデジカメでのかわいい犬や地元のお祭りの写真などほっとさせられます。覗いて、掲示板に書き込みなどお願いできれば嬉しい。以下、ホームページアドレスです。 <http://www.geocities.co.jp/Heartland-Keiyak/5818/>

反合闘争交流会 七月には反合闘争交流会を連合が開催し、もっと一人ひとりの組合員のおかれていた状況を出し合い交流をはかり、闘いを横に拡げていきたいと思います。当地の仲間たち、少し元気ありませんが、みんなで学習し闘い活動を続けていきます。今後ともよろしくお願ひします。
(占冠・I)

編集部より こちらこそよろしく。Iさんのところで元気なれば元気なところはなくなってしまう。また、うかがいたい。

年休裁判傍聴のお願い 都営地下鉄新宿三丁目駅の中山でございます。来たる九月三日(水)一四時―一六時頃まで、東京地裁六一九号もしくは七一〇号法廷にて、私が雇用先の東京都を相手取って提訴した年休等剥奪損害賠償請求訴訟の口頭弁論が開催されます。私と所属長のガチンコ対決となります。今、私の代理人である加藤晋介弁護士が、傍聴席に手話通訳を配置できるよう裁判所当局と折衝しています。カネより休みを、私たちに人間らしく生きる権利をください！(中山 一郎)